

令和 2 年度 さいたま市立新開小学校 自己評価書

校長 河井 尚 印

1 学校で設定した「令和 2 年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 新さいたま市の授業づくりを基に授業改善、指導方法の工夫に努め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わえる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。【各教科等の授業の状況】
- (2) 児童の発する小さなサインを見逃すことなく一人ひとりを共感的に理解し、いじめの疑いを含め発見した際には迅速かつ適切に対応するなど、積極的で繊細な生徒指導、教育相談を組織的に展開する。【生徒指導・教育相談の状況】
- (3) 業務改善の視点から会議の精選や運営の効率化を図り、健康管理の観点からもノー残業デーを設定するなど、在校時間短縮に向けた取組を行い、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。【働き方改革の状況】

2 評価結果について

- ・「授業が楽しい」「授業が分かりやすい」について肯定的に回答した児童は 94%、「学力向上に向けたきめ細かな指導」についての保護者の回答も 92%が肯定的であった。日々、工夫した授業が展開されていると考える。しかし「学習内容がしっかり身に付いている」についての回答は、児童 85%、保護者 83%と、どちらも 90%には届かず、学習内容の定着が課題となっている。
- ・「先生が話をしっかり聞いてくれる（悩みごとや困ったこと等）」について肯定的に回答した児童は 96%、「学校はいじめ防止に向け児童の悩みやトラブルについて適切に対応している」についての保護者の回答も 95%が肯定的であった。児童全員と面談を行う「なかよし面談」の時間を行事予定に位置付けて確保していることや、児童だけでなく保護者からの相談や要望に対しても誠実に対応していることが結果につながっていると考える。
- ・「会議の精選や運営の効率化」や「ノー残業デーの設定等の在校時間短縮に向けた取組」について肯定的に回答した教職員はどちらも 92%であった。働き方改革に向けた一人ひとりの意識が高まっていると言える。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・よい授業に基づいた授業づくりを継続していく。日常の児童の様子から、既習内容が理解できていない傾向が見られる。「振り返りの時間」や「本時の既習内容の確認」など、特によい授業の「因子② 基礎アップ」に重点を置き、学習内容の定着を図っていく。また算数ではT・Tでの指導を行っているが、単元によっては少人数指導や習熟度別指導を取り入れることも考え個々の児童の学力向上を図る。週 1 回行っている朝学習「算数タイム」では、今年度の活動を振り返り、必要に応じて内容の検討を行いながら、継続して基礎・基本の定着を図っていく。
- ・次年度以降も毎月の教育相談日「おひさまデイ」や「SC、SSWの来校日」についての文書を配付し保護者面談を進めていく。また、教育相談について面談や電話等で日常的に保護者と話す機会を積極的に設け、家庭との情報交換・連携を深める。また、学級の児童全員との「なかよし面談」の機会を増やしていく。また「先生あのね」を毎月配付し気軽に話せる場を設ける等、いつでもどんなことでも相談できる体制をつくる。
- ・働き方改革に向けた一人ひとりの意識は高まってきている。今後も個々が実現可能な取組を考え、積極的に実践していく。また、校務分掌組織の役割分担を明確にし、仕事を分散させることで効率よく進めることができ、全教職員の在校時間短縮につながる。